第一部

暗やみへの迷い道

第一章 脱出の道は備えられている

ジョンの情欲、性的束縛の問題は、あるゴミ捨て場から始まりました。まだ少年のジョンは、そこで初めてポルノと出会いました。父親の配属されていた軍の基地にあったゴミ箱を好奇心からあさっているうちに、願ってもいかなかったものが見つかりました。そんなポルノ雑誌などは、そのまま捨てておくべきだということは、ジョンにも何となくわかっていましたが、もうすでに、そのみだらな、刺激的な写真にすっかり心を奪われてしまっていたのです。隠れて魅せられたページを繰り、眺めていくうちに、ジョンの頭の中にしつかりと、その見たものが焼き付けられていきました。こうして、巧妙な罠にかかってしまったのです。

突然に、不吉な、けれども、刺激的な新しい世界に目覚めた幼いジョンは、刺激を求めて、他の所にも目を向け始めました。すぐに、父親が「プレイボーイ」を隠している所を見つけると、そこにしよつちゅうこつそり戻っては、その不健康な欲望をより一層あおるようになりました。思春期にさしかかる頃には、そうした不健康な刺激を見出すことは、お手の物となりました。性的空想と頻繁なマスターベーションにすっかり夢中になり、そうした体験をすることに、心の中で、ポルノの占める力が強くなっていきました。

人生の暗やみの側を求めるジョンの隠れた遍歴は、お酒、麻薬、性行為などに行き着いてしまいました。けれども、その一方では、感じの良いクリスチャンの少年という表向きイメージを保ち

続けていました。高校時代には、両親は行ってもいないのに教会に出席し、そしてユース・フォー・キリストというグループで積極的に活動をしていたほどでした。

十八才になったジョンは、キリスト教系の大学に進学しました。けれどもその隠れた悪癖は、急速に力を増していく一方でした。お酒や麻薬を自虐的なまでにやるようになり、性的渴望を満たそうとする抑えのきかない欲望は、超過激なポルノ映画でしか満足できなくなっていました。大学生活においても、勉強よりもどんちゃん騒ぎや性的冒険の方にばかり目が行っているという状態で、結局は大学を落第し、退学させられるという不名誉な結果になってしまいました。

父親にならって軍隊に入ってみれば人生への道が開けるのではと考えたジョンは、海軍に入隊しました。けれども、状態は悪くなっていく一方でした。薬物の乱用やポルノへの誘惑が、以前にもましてあふれかえっているようでした。抜き打ち検査によって、ジョンが麻薬をやっていることがばれてしまい、そのせいで、何度も昇進を見送られてしまいました。

仕事がらみのけがをして、基地の病院で横たわりながら、ジョンはすっかり追いつめられてしまっていました。青春時代に仕えるようなふりをしていただけの救い主に叫び求め、そのみじめな人生をキリストにと明け渡しました。すぐに、ジョンの上に、奇跡的な変化がもたらされました。お酒やたばこを欲しいと思う気持ちも、ポルノや不品行への欲望も、突然に消え去ってしまいました。やっと手にした素晴らしい平安！

けれどもジョンの安堵は長続きしませんでした。三週間後、基地のトイレで一冊のポルノ雑誌を、

たまたま見つけてしまったのです。誘惑に負けてしまったジョンは、今度は、罪、罪悪感、フラストレーションといった新たなサイクルをめぐるようになっていました。不品行の沼の中に落ち込み、神を失望させてしまい、恥ずかしいと思う気持ちに打ちひしがれてしまいました。その窮状を理解してくれそうな、相談できる人もありませんでした。ジョンはひどく孤独でした。

海軍をやめたジョンは、アンジェラという美しいクリスチャンの女性と出会い、結婚しました。アンジェラは、ジョンの性的問題については何も知りませんでした。失望させてしまった神をなだめようとするかのように、ジョンは大学に戻り、ミニストリーのための備えをしてから、働きに携わるようになりました。けれども、まだ隠れた所ではボルノや薬物の奴隷のままでした。心の中の葛藤はジョンを苦しめ、アンジェラとの関係にも支障をきたすようになってしまいました。自分ではどうすることもできない破滅への鎖を断ち切ってくれるものを心の底から望んでいました。

初めての子どもの誕生と、給料の良い新しいセールスの仕事が助けとなることを、ジョンは願っていました。けれども、家から遠く離れ、出張を重ねることによって、その性的中毒に新たな問題が加えられることになってしまったのです。ホテルのケーブル放送からはボルノ映画がふんだんに流されていきましたし、どの部屋でも、他の客が巧妙に隠していたボルノ雑誌をいろいろな場所で見つけることができました。新しい環境の中で解放されるどころか、ジョンを縛りつけている束縛はより強められ、下降の一途をたどることになってしまいました。

アンジェラがジョンの問題の深さに気付き、問いただしたところ、ジョンはすべてを涙ながらに

告白しました。アンジェラはジョンを赦しました。そして、回復に向けて協力することを約束しました。やっと隠し事もなくなり、真理の光の中を歩めるのだとジョンはほっとする思いでした。

けれども、悲しいことにジョンは光の中に長くどどまることはできませんでした。またすぐに、以前の破滅的な習慣に戻ってしまったのです。けれども、今度はアンジェラが爆発してしまいました。家族を台無しにしてしまっているジョンの嘘や自己中心的な行動に、もう我慢できなくなってしまったのです。結婚生活六年目にして、アンジェラは離婚することを堅く決意したのです。

家族を持ち、幸せな生涯を送るという自分の夢が消え去ってしまったんだということに、突然、ジョンは気付かされました。どうしても抑えることのできない暗やみからの欲求のせいで、ジョンの結婚生活も仕事も、クリスチャンとしての働きも崩壊させられてしまったのです。失意のどん底の中で、何度もジョンはこう思っていました。「あの雑誌をそのままゴミ捨て場にほうっておいてさえいれば。」

あまりにもよく使われる罨

クリスチャンであるのに、情欲や罪深い習慣の奴隷となっていたジョンの悲しい体験は、私たちの社会においては、不幸なことに唯一の例外といったものではありません。私は、実際に何百人ものジョンのような人々と話をしてきました。ある人たちは、セックスに関する汚れた思いが絶えず

思いにあらわれることに悩んで、私のもとにやって来ました。またある人たちは、この領域においてその罪深い習慣に完全に打ち勝つことができていることを告白しました。そのせいで日々の勝利や霊的な成長が妨げられていたのです。抑えのきかない情欲と性的不品行の奴隷となりながら、ひそかに苦しんでいる人たちもいるのです。

「性的な罪の奴隷になったりするのは、クリスチャンではない人のことでしょう」と思っておられるかもしれません。

いいえ、クリスチャンではない人のことについて言っているわけではありません。私がカウンセリングをする大半の人々は、あなたや私の出席しているような教会に出席している福音派のクリスチャンです。その多くは教師として、また、聖歌隊や委員会で奉仕をする立場にいる人たちです。執事や長老、委員として信者の指導的立場にある人もいます。牧師、宣教師、超教会組織の役員、聖書学校や神学校の生徒といった献身者、またその準備をしている人たちの中からも驚くほどの数の人々と話をしてきました。どのような成長段階にあるクリスチャンであっても、セックスに関する誘惑、悪い習慣、束縛によって攻撃を受けることは、はつきりしています。

性的束縛の例は、教会の中でも教会の外と同じだけ見られるものです。アメリカの保守的神学校の卒業生に、性的誘惑について調査を試みることがあります。六〇%の人々が自分の性的生活に対して罪悪感を抱いていました。そして、その半数が、もし秘密が守られるならば、性的な問題からの解放を約束してくれるクラスを受けたいと希望していました。

数年前、ある有名な説教者が私の神学校のチャペルで、セックスに関する説教をシリーズでやってくれました。彼は、ミニストリーに携わる前に、自分の性的な領域をしつかり取り扱っておくようにと強く生徒たちに勧め、「牧師が性的不品行に陥ってしまい、主イエスの御名にこれ以上、恥をもたらずようなことがあつてはならない」と、熱心に語りました。けれども、最近、こう語ったその人が、性的不品行のせいでのミニストリーを失ってしまいました。

私のある神学校のミニストリー部門の博士課程で教えていた二人のキリスト教指導者も、同じ理由でミニストリーを失いました。他にも多くのキリスト教指導者たちたちが罪に陥ってしまいました。その中には、私の大切な、個人的な友達もいます。そして、神の御恵みによるのでなければ、自分もまた彼らのようになってしまい得ることをたいへんよく認識しています。欺かれてはいけません。クリスチャンであるからといって、性的な罪に陥ることをまぬがれるわけではありません。自分は性的不品行による攻撃を超越していると思っている人こそが、その攻撃によって、最も傷つけられてしまいうすいのです。

「男性のことについてであつて、女性には当てはまらない。セックスに対して不健康な好奇心や関わりを持つのは男性のすることだ」と思つておられるかもしれませぬ。

けれども、男性だけのことではないのです。確かに、悪魔は、聖書の道徳基準への攻撃において、男性の性欲をその第一攻撃目標としているようです。そのことは、書店やテレビにあふれている男性向けのポルノの山からも明らかです。けれども、いろいろな人から話を聞くうちに、多くの女性

もまた、みだらな空想や肉欲の魅力のとりこになってしまっていることがわかってきました。

テレビで放映されているメロドラマを数えてみてください。そうした昼のドラマは、女性の空想に応えようとしているのです。昼間のトークショーでかわされている墮落しきった話を考えてみてください。また、書店では、胸をむきだしにしたくましい男性と、魅惑されたヒロインが絡み合っている表紙のついたロマンス小説がかなりのスペースをとって並べられています。スーパーマーケットのレジの周りには、ハリウッドのスターたちの情事を詳しく書きたてたゴシップ誌が並べられ、その数は増えていく一方です。何十億ドルもがすぎ込まれていることから、こうしたものを喜んで受け入れている女性たちがいることは明らかです。そして、処女性や貞操といった聖書の価値観や、正常な男女間の愛でさえもが、あらゆるところで時には静かに、また時にはおおびらに嘲笑されているのです。そして、悲しいことに多くのクリスチャンの女性も、その思いの中だけであつたとしても、この不品行への誘惑の暗い渦の中に知らず知らずのうちに飲み込まれていってしまっているのです。

鍋に入れられたカエルのように

ジョンがポルノを見るようになり始めた時に、もし、「こういつたポルノに支配されるつもりなのかい」とたずねたならば、きつと、こういう答えが返ってきたでしょう。「もちろん、そんなつもりはないよ。ただ、ちよつと見て、しばらくの間楽しみたいだけなんだ。支配されたりなんかし

ないよ。」けれども、後にどん底の状態になってしまった時には、ここちよい刺激として始まったものが、巧妙に、自分を身動きがとれないまでに追い詰めてきたのだということを、認めざるを得ませんでした。ジョンは支配権を失い、セックスという鎖につながれることになってしまったのです。

そして、その性的な誘惑がどんなに「罪のない」、たいしたことのないものであっても、もしそのまましておくならば、最終的には、支配権を失い、性的束縛に陥ってしまうことになるのです。私がカウンセリングをしてきた人々も、誰ひとりとして性的空想に支配されようなどと思ってはいませんでした。けれども、有名な、鍋の水の中に入れられたカエルの話のように、ポルノや性的空想にひそかに夢中になっていることによって、じわじわと従属へ煮詰められていることには気づかなかつたのです。初期の段階ならば、カエルも、性的な誘惑を受けているクリスチャンも、熱いお湯から飛び出すことができます。けれども、妥協を繰り返し、致命的となり得る環境に身を置き続けるならば、弱ってしまい、罠から逃れられなくなってしまうのです。

一般的には性的中毒と呼ばれることが多いようですが、私は、この罠を性的束縛と呼んでいます。その違いはどこにあるのでしょうか。どちらも、性的情欲によって支配されている状態を意味しています。けれども、問題の元凶となっている、罪の奴隷であるという聖書の概念に沿うことから、私は、束縛という言い方の方を好んで用いています。使徒パウロは、自分のことをイエス・キリストのしもべ（奴隷）と呼んでいました。そして、クリスチャンならば、皆、そうするべきなのです。

人でも、物でも、人生の中で、それがキリストよりも大事になってしまえば、その奴隷となってしまうのです。その人、またはその物の持つ力と権威を、キリストが私たちの人生の中で持つておられる力と権威より高めてしまっていることとなり、それは罪なのです。

キリストのしもべである私たちは、性的不品行や性的束縛に対して勝利を収めることができるのであり、また、勝利を収めているべきだということをこの本を通してお話ししていきたいと思っています。なぜなら、キリストは、悪魔と罪に打ち勝ってくださったからです。私たちを強くしてくださるキリストにあつて、私たちはどんなことでもすることができるのであるから（ピリピ4章13節）、性的束縛からも、キリストにあつて解放されることができなのです。性的中毒からの回復療法では、セラピーと、行動を矯正することがその答えだと考えられています。けれども、私は、性的束縛に対する答えは、悔い改めと信仰であると考えています。自分のしたことを罪と認め、縁を断ち切り、真理を信じることを選び取るならば、自由になることができます。

アメリカで「フリーセックス」の風潮がもてはやされた頃に、この性的欲望に負け、支配力を失ってしまうという問題が、はつきりと私に理解できるようになりました。地域の普通の大学から、結婚と家族というクラスでクリスチャンの見地から話をしてくれるように頼まれたことがありました。そのクラスは二、三人の男性をのぞいては女性ばかりで、結婚や家族といったことは、よくわかっていないようでした。

ある男性は、まったく私の話には興味がないようでした。一人で、離れたところに座ると、話の

間中、新聞を読んでいました。けれども、話は聞いているようでした。時々、変な音を出しては、私の信仰に対する反対の意志を示していたからです。

質問の時間をとると、ある若い女性がこうたずねました。「マスターベーションについてクリスチャンはどう考えているのですか。」

私が答える暇もないうちに、例の男性が皆に聞こえるよう、自慢げに言い放ちました。

「俺は、毎日、やってるぞ。」

私が、その挑戦じみた言葉にどう答えるのかを見守る他の学生の中に、ぎこちない沈黙がながれました。「おめでとう！」やっと、私は口を開きました。「けれども、マスターベーションをやめることができますか。」

残りの話の間中、その男性は黙り込んでいました。クラスが終わると、他の学生が立ち去るのを見とどけてから、私の所にやってくると「どうしてやめたいなんて思わないといけないんだ」と、ののしってきました。

「やめたいですかと聞いたわけではありません。やめることができますかとたずねたのですよ。もし、やめることができないならば、自由だと思っていることが、実際には束縛以外のなものでもないからなのです」と、私はこたえました。

自由か、束縛か、それこそが問題なのです。明らかに神のみことばに反するような、性的に汚れた思いを抱いたり、行動をしまつていいるならば、やめてみてください。するべきではないとわ

かっているのにやめることができないならば、ジョンと同じように、あなたも、そうした思考パターンや、行動の奴隷として束縛されてしまっているのです。そして、キリストにある自由を見つけ出す必要があるのです。自己決意や、意志の力、カウンセリングでは、解決に至らなかった点において役立つようこの本は、書かれています。

関わりの程度

性的束縛という広いカテゴリーの中には、どのようなものが含まれているのでしょうか。性的中毒について調査している人々の研究から、役立つ答えを見つけることができます。性的中毒の分野において第一人者である、パトリック・カーンズ博士は、クリスチャンではありませんが、強制的な性的行動の罠に陥ってしまった人々について研究してきました。その著書、*Contrary to Love*（愛に反すること）の中で、性的中毒に至るまでの三つの下降段階が説明されています¹。ある段階で束縛されているとしても、それが必ずしも次の段階に進んでいくわけではありません。段階が進んでいくにつれて、人との関係を避けた行動が増えてくるようになります。

第一段階・標準的行動

一般社会において、普通だと思われる、つまり、社会の中でよく行われており、受け入れら

れている（ある人々には嫌々ながらも）行動からなっているのが第一段階です。その行動には、多くの場合、より大きな性的刺激を求めて、犯罪と呼べるような暴力には至らないけれど、人を利用したり、犠牲にしたりすることが関ってきます。その例をあげてみましょう。

性的空想とマスターベーション

一般社会では、空想のことは、自分の身体をオーガズムにと刺激する場合でも、しない場合でも、おおむね受け入れられており、時には、実生活のストレスの健康的な解消法であると考えられています。多くの人々は、性的空想は害のない性的エネルギーのはけ口であると考えています。頭の中で想像するだけならば、実際に誰かをレイプしたり、伴侶に不貞をはたらいたことにはならないからです。

そのために、同僚の女性や、友達の奥さん、ヌードバーのなまめかしい踊り子、ビデオに出てくる魅惑的な女性とセックスをすることを想像しても、男性は、それをまったく悪く思うことはないかもしれません。女性の方では、恋愛小説の中に入りこみ、非のうちどころのない、ハンサムなヒーローに身をまかせることを想像するかもしれません。そして、多くの場合に、空想とともに、想像上のパートナーでは与えてくれない肉体的な快感を求めて、マスターベーションが行われています。けれども、そうした空想の一つ一つが魂を取り巻いている鎖を長くしていつてしまうのです。そして、最終的にそういった人は、汚れた思いや欲求に支配されずに人と接することがむずかしくなってしまうのです。

ポルノ

性的欲望を刺激するのを目的としていることなら、すべて、ポルノであると言えるでしょう。ポルノの中でも、まだ違法とされているものはありますが、私たちの社会にはポルノが氾濫しています。そして、不愉快に思っている人もあるのでしょうが、多くの人たちに受け入れられているのです。プレイボーイや、ペントハウスといった「男性向けの娯楽」雑誌もあふれています。また、書店や図書館の書棚には、神の意図されたセックスとはかけ離れた、ありとあらゆる倒錯が詳細にわたってしるされた小説が並べられています。

RやNR・17、Xという部類に属するポルノ映画は、成人向けの書店からシヨッピングセンターにある映画館に場所が移され、「成人向け」として放映されています。ケーブル放送では、「成人向け娯楽」という名のもと、次から次へとセックスシーンが（男女間のものとともに同性間も）ながされています。ネットワークTVも、それに追従する様子を見せています。

はつきりと性的なことを歌っている人気のある音楽、多くのアーバンセンターで行われているライブのセックスショー、テレクラや、最近ではコンピュータセックスをリストに加えることができます。この社会に見られる性的刺激への飽くことのない欲求に対して、限りなく、様々な刺激が用意されています。そして、そのほとんどが法になかったものであり、容易に手に入れることができるのです。

この世の神である悪魔は、私たちの国の道徳基準を、徐々に、巧妙に低落させてきました。性的

にあからさまなものに対して、悪魔は、この世代の人々を無感覚にさせてきたために、もはやそうしたことに反応しなくなってしまうのです。ポルノに手をだすクリスチャンは、目隠しをして地雷の埋められている地を歩いていく兵士のようなものです。遅かれ早かれ、まずい判断や、軽率な試みによってその身に災いを招いてしまうのです。

不正な情事、あるいは売春

婚前、婚外交渉は、今日、広く受け入れられているようです（苦い思いをさせられた人は別かもしれません）。逆に、結婚までセックスを待つこと、結婚してからは貞節でいることは、多くの場合、古くさく、取り澄ましたことだと考えられています。

メディアも、このことに関して、猛烈な勢いで売り込みをかけています。映画やテレビ番組では、少年、少女がその処女性を失うこと、独身者が、次から次にベッドインする相手を変えていくことが、軽く扱われています。「うまくやる」ことができない、あるいは、しない人物は、多くの場合に変わり者として描かれています。昼間のドラマは、結婚の誓いを破ることを美化し、姦淫を「真実の愛」の名のもとに正当化しています。売春の行われている場所やマッサージパーラー、ソープランドなどによく出入りし、お金でセックスを買うことは、しばしば、コミカルに描かれています。それに加えて、同性愛も選択可能な生活スタイルの一つであると考えられています。お互いが納得し合った成人同士ならば、結婚していない相手とでも、性的欲求の望むままを行なうことができるというのが、その冷酷なテーマとなっているのです。

性のことに關して、墮落していつているこの世の基準によつて影響を受けてしまうクリスチャンは、道德的に、下流の危険な所へと押し流されてしまつてゐるのであり、最終的には、滝にと行き着いてしまふのです。妥協が妥協を生み、彼らを待ち受ける性的束縛にと突進していつてしまふのです。

第二段階…わいせつ行為

犯罪には当たらないにしても、大半の人々によつてわいせつだと考えられる行為をする人が、性的中毒の第二段階にあてはまります。そうした人は、その性的快感を高めるために、しばしば、人前で（たいていは、無理矢理に）、そうした行為を行います。こうした人は、第一段階であげた行動の一つ、またはもうすでにそれ以上、束縛されているかもしれません。けれども、麻薬中毒者よりもハイな気分を求めるように、より大きな性的刺激を得るために、より大きな危険をおかすのです。

この部類に含まれる行動には、こういったものがあります。露出症（性器を人前にさらすこと、フラッシュング、ストリーキング）、覗淫症（性的対象物や性行為を見て性的な興奮を得ること、「覗き魔」、男装、女装（異性の服装をすること）、獣姦（動物とのセックス）、わいせつな手紙や電話、物品淫欲症（衣服などの物から性的興奮を得ること）、死体姦症（死体とのセックス）、その他、人前での様々なわいせつ行為。

第三段階・極端な行動

この段階に属する人々は、その犠牲者に対して辛い、犯罪的な行為をしてしまいます。こうした行為は、一般的に、あまりにもひどいものと考えられているために、その加害者のことは、しばしば非人間的で救い難い存在だと思われています。連続殺人鬼のテッド・バンディやジェフリー・ダーマーのような反社会的な性的犯罪者は、この段階に属しています。この段階にあてはまる行動として、子どもに対するわいせつ行為、近親相姦、強姦、サド・マゾ（性的快楽を高めるために苦痛を与えたり、受けたりすること）があげられます。

すべての人が、自動的に段階から段階へと進行していくわけではないと、カーンズ博士は主張しています。むしろ、段階は、人におよぼすリスクの程度によって性的中毒を分類化する手段にすぎません。けれども、人の性的行為がある一つの段階にだけとどまっていることはめったになく、広い範囲にわたって他の段階とも関わりがあることを、カーンズ博士は指摘しています。わいせつな露出行為をする人は、一方では、ポルノの奴隷でもあり、また不義の関係にも関わっているかもしれません。

ブレイボイイや覗きといった「罪のなさそう」なものに夢中になっているだけの者が、連続性犯罪者や殺人鬼といった深みにまで陥ってしまうなど、ありえないことのように思われるかもしれませんが、けれども、扉が絶えず喜んで開かれている状態ならば、決して暗やみの王国の力をあなどってはなりません。扉を閉ざし、神のみことばの光に照らされた清い道徳に戻ることだけが、唯一の

安全な道なのです。

あなたも自由になることができる！

性的な誘惑に絶えず悩まされていたり、性的な悪い習慣に負けてしまっているために、この本を手にとられた方もあるでしょう。たとえば、どうしても、ポルノ雑誌から離れられないのかもしれませんが。以前は、プレイボーイや、奥さんに送られてくる下着のカタログ、詳しいセックス描写のある小説などは、思いに満ちている誘惑や空想を実行に移しさえしなければ、害のない娯楽にすぎないと正当化していました。けれども、もう今は拾い読みをするような段階をはるかに越えてしまったことに自分でも気付いています。どこでなら気付かれずに、雑誌を手に入れることができるかもわかっています。時々、雑誌の山を捨ててみるのですが、またすぐに手が伸びてしまうのです。そうしたものに、捕らえられ、よりいっそう過激な写真や話を渴望している自分がいるのです。

あなたにとって一番大きな問題は、ポルノ映画やビデオかもしれません。濃厚なセックスシーンは無視して、話の内容を見ているのだと自分に言い聞かせているかもしれませんが。それに、多くのクリスチャンがセックスや暴力、ヌードを扱った映画を見にいつているけれども、何も問題はなさそうです。ともかく、なさそうに見えます。けれども、あなたはそうではありません。心の壁を覆い尽くし、性的空想をかきたててくれるエロチックなシーンを、絶えず求めているのです。

自分はメロドラマとロマンス小説中毒なのと、冗談ばく、友達に話したことがあるかもしれません。けれども、心の底では冗談ではないことがよくわかっています。午後のメロドラマに合わせ一日の計画を立て、ベッドのそばのスタンドの上の聖書は、もう何ヶ月もくだらない本の山に埋めています。性的な、そして情緒的な刺激を得るために、そんなものに頼りたくはないのですが、どうしてもやめることができないのです。

あるいは、婚外での性的関係や、同性愛に執拗に魅力を感じ傾倒すること、露出症、サド・マゾの傾向といった、聖書に反する性的行為にひそかに陥ってしまっているかもしれない。自分のしていることが悪いことは、よくわかっています。こんな状態に陥ることになってしまった原因を、元に戻って、一つずつ取り除けたらと願っているくらいです。そうした行為を重ねることに、よりいっそう束縛の暗やみの中に沈んでいく自分にも気付かされています。

けれども、どれほど努力をしても、やめることができないのです。そして、どうしたらよいかもわかりません。心から自由になりたいと願っているのですが、この章のはじめにでてきたジョンとアンジェラに、多くの苦しみと心痛を引き起こしたのと同じ、暗い行き止まりの道を自分も歩んでいるのではと、不安になってしまっているかもしれません。

もし、性的束縛から解放されたいと心から望んでいるならば、あなたのために良い知らせがあります。解放され、自由になることはできるのです！ このミニストーリーでの私の同僚ラス・ランマーの知り合いだったジョンが、その生ける証拠です。ジョンがああ後どうなったのか、話を戻してみ

ましよう。

アンジェラに家から出ていくよう迫られたジョンは、精神的に限界に達しました。気持ちを整理するために、友人たちと山へでかけると、そのうちの一人が、私の著書「鎖を解き放つ主」を渡してくれました。ジョンは、それをむさぼるように読みました。そして、何年にもわたって自分の人生を支配してきた性的な拠点の、もともとの原因を知ることができたのです。「鎖を解き放つ主」と付録Aにある「キリストにある解放へのステップ」を、ジョンは神とともに三時間かかってやってみました。その人生の中にあつた拠点との縁を断ち切り、束縛される一因となっていた幾つかの問題も取り扱いました。ジョンは、後からラスにこう語りました。「いままでの神様との時間の中で、もつとも解放感を味わった時だった。」

それからジョンは、さまざまな束縛から解放された人たちからなる小さなグループに入りました。ジョンはこう語っています。「どん底から私を立ち直らせる作業を、神様は始めてくださったのです。はつきりと、私がおかを学びとることを望んでおられるように思えました。自分が妻に与えてきた苦しみ、結婚生活から放り出された時に感じた絶望感などに正直に向き合わなければならなかったのです。」

それからの数ヶ月間、神は、ジョンを霊的な初心者のための特別訓練コースに入れられたようでした。友人たちやグループ、ラス・ランマーらの祈りとサポートによって、神は、ジョンとアンジェラとの関係を修復し始めてくださいました。同じ頃に、アンジェラも「解放へのステップ」をやり、

ジョンと一緒にサポートグループに参加するようになりました。三ヶ月間の別居生活の後、ジョンとアンジェラはまた結び合わされました。現在、ジョンは性的束縛から解放され、アンジェラとの絆も日々、強められています。

ジョンはこう結んでいます。「まだ、かなり出張をしなければならぬのですが、状況はまったく変わりました。そうした時にはアンジェラと、互いに支え合うのです。ホテルの部屋にチェックインすると、すぐにひざまずいて、力が与えられるように祈ります。それから、ポルノの隠されていそうな所を調べて、見つけたポルノを全部捨ててしまいます。それから、くだらない映画を見ることができないようにテレビを設定します。特に誘惑を感じる時には、アンジェラに電話をして一緒に祈ってもらうのです。」

自分は完全ではないことを、ジョンは認めています。幾度かつまづいてしまったこともありましたが、けれども、以前支配されていたような、罪悪感、怒り、自責の念を堂々巡りするようなことはなくなりました。誘惑に出会っても、もうどうすればよいのかがわかっているからです。そして、もう何も隠す必要のないことに、心からほっとしています。ジョンは自由なのです！

何らかの性的束縛によつて、キリストにある勝利が奪い取られ、成長が妨げられている人が解放されるための助けとなるようにこの本は書かれました（他の人がキリストにある解放を見出す助けをするために読んでくださっている場合にも、大変役に立つと思います）。魔法の呪文などはありません。けれども、この本を通して、性的誘惑や性的束縛、この葛藤において悪魔の果たしている

破壊的な役割、キリストにあるあなたの本質、あなたの自由のための神の備えなどについて、神のみことばの中に語られている真理を再確認することができるでしょう。また、付録Aの「キリストにある解放へのステップ」は、束縛される原因となった行動との縁を断ち切り、キリストにあって、あなたが受け継ぐべき自由を手にする助けとなるでしょう。

キリストがあなたのために備えてくださった自由を理解するだけでなく、もともと、どうして束縛されるようになってしまったのかを理解しておくことも重要です。この本の第一部では、性的束縛への道を見極め、エデンの園のアダムとエバにまでさかのぼり、セックスに対する悪魔の狡猾な偽り、セックスと結婚に対する神の御計画、そして、それを無視した場合の悪い結果などについて見ていきたいと思えます。

第二部では、性的誘惑や束縛から逃れるために、イエス・キリストが備えてくださった脱出の道を中心に話を進めていきます。キリストにある自由を確かなものとするために、何を信じ、どのようなことをすればよいのか、性的な誘惑による思いの戦いにおいて、どうすれば勝利をおさめることができるのかを学びます。そして、キリストにある喜びと成長を妨げてきた罪深い拠点から解放され、キリストにあって快方へと向かっていくことができます。

この本は、また、強姦や近親相姦、わいせつ行為などによって性的に利用された人のためでもあります。フリーダム・イン・クライスト・ミニストリーズに助けを求めてやってくるほとんどの人が、自分の問題の原因を何らかの性的虐待にたどることができます。福音がどのように被害をくいじめ、

虐待のサイクルを止めることができるかについて、話していきたいと思っています。キリストだけが唯一の答えであり、真理は、被害者も加害者も共に解放してくれることを、私は強く信じています。

この本を書きながら、皆さんが、イエス・キリストが十字架上で買い取ってくださった性的な自由を見出してくださいさることを心から祈っています。今、あなたを困らせている性的な罪のかせに陥ってしまった原因がどうであろうと、神の憐れみを呼び求めるならば、自由が与えられるのです。自由は、「あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望み」(コロサイ1章27節)を通して与えられるのです。イエス・キリストは、鎖を解き放たれる主なる方です。そして、脱出の道でもあらわれるのです。